

『もりおかの短歌』春の部

〈一般部門〉優秀賞十首

おきな ひまつ だいこ ね な
幼き日祭り太鼓の音に泣きし

はは せなか
母の背中の

ぬく こい
温み恋しき

奥州市 沼倉 規子

ざんせつ かわ あそ わ かげ
残雪の川に遊びし我が影は
とけてはむすぶ

うたかたの夢 ゆめ

北海道函館市 古屋 創大

ふるさと はな ち まな こ
故郷を離れこの地に学ぶ子を

いだ まも
抱き守れよ

もりおかの空 そら

愛知県一宮市 五十嵐 理子

わしがた み おやま はげ
鷲形の見ゆる御山に励まされ

きぼう うた
「希望」歌ひて

ゆめ たねえ
夢の種選る

青森県青森市 鈴木 操

いしわ さくら はな さ ごと
石割って桜の花が咲く如く

かくご き
覚悟を決めて

ち い
この地に生きる

盛岡市 河野 康夫

いつ ゆほんや
何時も行く本屋のレジに

み かお た
見たことのなき顔が立つ

はる ゆふつきよ
春の夕月夜

盛岡市 立石 昂

さつぽろ がくせいじだいおも だ
札幌の学生時代思い出す

もりおか さ
盛岡に咲く

かお
リラの香りに

盛岡市 鈴木 充

てんぼうさん

天峰山から

はる すその みお

春の裾野を見下ろして

わかものたち

若者達のパラグライダー飛ぶ

と

盛岡市 小林 貴史

「ウイルスを運ばぬように」

はこ

うつむ

ちやくにん

はる

俯きて着任の春に

きよ やま

清き山あり

盛岡市 郷家 美磨

はた お
機を織る

やよいさんがつ

弥生三月もりおかの

しこんさきおり

や

じまん

紫紺裂織わが家の自慢

盛岡市 赤坂 昌信

春の部へジュニア部門へ

優秀賞

該当なし

【講評】

一般部門

『もりおかの短歌』に関わるようになってかれこれ十年。この間に東日本大震災があり、盛岡を訪れる修学旅行生や観光旅行者が激減しました。震災の復興が徐々に進むなか今度は新型コロナウイルスの世界的な流行です。ウイルス禍の日々、行動は制限され籠りがちの暮らしと思われませんが、意外にも前向きな人々の生活が詠われていて、鑑賞しながら心強くなりました。

令三年六月選 春の部

投稿数 六十一首

選者 松田 久恵